



私は9歳の時に習っていたピアノの先生に勧められミュージカルのオーディションを受けました。転機になったのは10歳の時に劇団四季「ライオンキング」ヤングナラ役のオーディションを受け合格したことでした。約3年間たくさんのこと学ばせていただきました。舞台から見る景色は本当に夢のような世界でした。この経験をきっかけにミュージカル女優を目指し、中学生になってからも舞台やレッスンを続けていましたが、高校に入ると新しい環境が楽しくミュージカルから離れてしまいました。高校2年生の時、将来について改めて考え当時私の姉がお世話になっていたアドミッション留学センターに相談をしに行き留学することを決意いたしました。ミュージカルの本場ブロードウェイを目指とし、そのためにはまずは英語力とミュージカルに必要なスキルを身に着けるため2018年の秋からカナダへ留学しました。カナダでは現地の高校に通い、放課後はフレーザーバレー・カデミー・オブ・ダンス



2020年カナダの高校卒業後、ニューヨークの演劇学校へ進学  
ブロードウェイでミュージカルダンサーを目指す

## 角西 環

Tamaki Kadonishi



(FVAD)でバレエの基礎からコンテンポラリー、ジャズ、ミュージカルシアターのクラスを受けました。翌年5月にはFVADのミュージカルの舞台で役をいただき、ソロで歌うシーンまでいただきました。しかし舞台前日リハーサルで英語の発音の指摘を受け、初めて英語の大きな壁を感じました。どんなに上手に歌えても相手に伝わらないのではないかという恐怖を感じ、本番で歌うことがすごく怖かったです。徹夜で特訓した結果、本番後にはたくさんの方々から、「感動した」「とてもよかったです」とたくさん声をかけていただき本当に嬉しかったです。同時期から高校卒業後の進路を考え、アメリカの演劇学校を毎日調べオーディションにチャレンジしました。結果的に4つの学校から入学許可をいただきました。一番の目標であったニューヨークの演劇学校も2校受けましたが、そのうち1つは不合格でとても悔しかったです。もう1校のThe American Academy of Dramatic Artsでは夏休みにオーディションを兼ねたサマースクールがあるということで受けに行くことにしました。アジア人1人、8割アメリカ人という輪の中に入り、自分のスキルがまだまだ足りないことや、乏しい英語力に苦しみ、毎日が緊張の連続で腹痛になるほどでした。しかしサマースクールが終わる

頃にはたくさんの友達に恵まれ、「このまま終わってほしくない!」と思えるほど楽しい、笑いの絶えない学校生活に変わっていました。正式オーディションを受け無事に合格し、この学校に行きたかった矢先、コロナが世界中に蔓延し、留学途中で日本へ帰国となりました。秋からニューヨークへ行けるかどうかわからぬ状況が続きましたが、ありがたいことに6月には無事に高校を卒業し、8月末に学生ビザも取得でき、9月からニューヨークで新学期を迎えることができました。同じ夢を持つ友達と舞台を作ったり、クラスを受けることは本当に刺激的で毎日の学校がとても楽しいです。自分が思っていた以上に楽しく恵まれた環境にいれることは、今までご指導いただいた先生方や家族、小林さん、そして応援してくれる友達のおかげだと思います。将来ブロードウェイで活躍し、皆様に少しでも恩返しができるように頑張ります。

